

熟手 年習 のい

パソコン編

第4回《最終回》 情報は毛細血管を流れる



今井 洋 (千葉県市川市開業)

URL : <http://www.imaident.com>
E-mail : imaident@gol.com

組織図

歯科医師会に入っている利点の一つに情報が早く伝わるということがあります。保険の情報にしても改定時には社保講習会を開いて、新しい点数表を配布してくれました。

歯科医師会の集まりのなかでもっとも出席率のよいのはこの講習会でした。

しかしながら現在、開業医の半数以上はレセコンを利用しています。改定情報はレセコン会社を通じてプログラムがバージョンアップされ、新しい点数やルールは自動的に更新されていきます。すなわち、レセコンは自動的に新しい点数やルールで計算してくれます。あと10年もすれば、ほとんどの歯科医院が導入するでしょうから、いずれ社保講習会はなくなる可能性もあるのです。

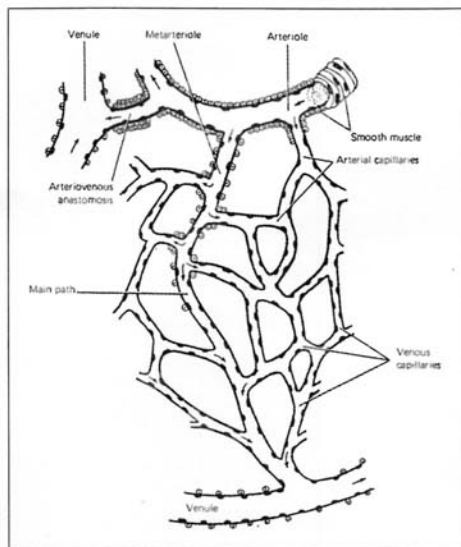
歯科医師会上層部からの連絡事項も、情報開示とネットワーク化が進むので、いままでの上位下達はなくなるでしょう。

すなわち、いままでの組織図や連絡網のあり方がピラミッド型から網目状に変わっていき、さらに情報はリアルタイムに伝わるようになるのです。

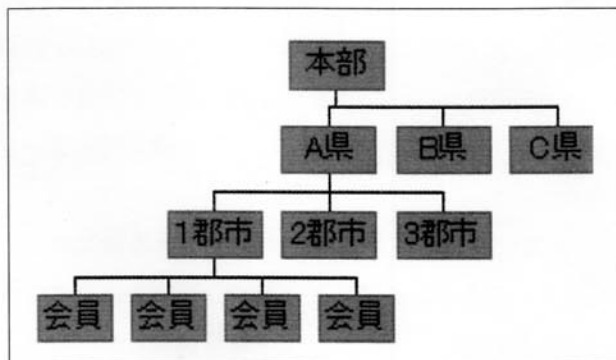
情報は毛細血管を流れる

われわれは情報社会のなかで暮らしています。情報が今日のようにネットワーク化しているのは、血液循環に似ています。すなわち1人の人間を1つの細胞にたとえれば、新鮮な酸素や栄養が毛細血管によって絶えずそれぞれの細胞に運ばれているのと同じです。

また、血液の流れは、動・静脈および樹枝状に分岐してその支配領域に向かいますが、その経過中に毛細管以前の部で小動脈枝同士で交通します。これを血管吻合と呼びますが、吻合の重要なことは、これによって側副循環が形成されることです。すなわち、一定区域に走る血管のおもな路が中断されたとき、側副脈管により血液の



図① 血液は網目状の血管を流れる



図② 組織図の枝が一つでも折れると下部組織に情報伝達しない

輸送および送還を成立させるのです(図1)。

いままでの連絡網や組織図(図2)を想像してください。上部からの情報はその子ども、孫組織に伝達していきます。途中“吻合”がありませんから、連絡が途切れたりするとその下部組織には情報の伝達が終わって難しくなります。こちらはなんとなく“脳”や“心臓”の血管に似ていませんか? 一部に血栓ができるとその下部組織は残念ながら“壊死”を起こしてしまうのです。情報ネットワークではそんなことはありません。ほとんどが毛細血管であり、さらに“吻合”という便利なシステムが存在するからです。

このようにネットワークされた組織はそれぞれに情報を蓄え、それぞれに機能することができるのです。